

## 第1回総務文教部会記録

- ◆日 時：令和5年9月22日（金） 14時00分～16時30分
- ◆場 所：京丹波町役場大会議室
- ◆出席者：山根里香委員、大西義弘委員、坂本正義委員、長谷川真一委員、谷文絵委員  
（堂本次長、下村課長補佐）

### 部会長・副部会長の選任について

部会長：坂本正義委員  
副部会長：山根里香委員

### 創生戦略事業評価について

#### ・地元学生定着促進事業 P5

次長：京丹波町塾は、大本の事業は京都府となり、コロナ前までは全校対象としており、昨年は瑞穂中学校のみとなる。未来塾は中学校3校となり、クラブ終わった3年生が対象となり、週1回程度の開催となる。臨時講師の先生方が主に対応している。

#### ・京丹波町ホストタウン構想推進事業 P5

次長：スーパーホッケータウンとして認定をうける予定。

委員：ホッケーは馴染みであるが、個人とする競技ではなく、チームの人数が必要なので、また、子どもが少なくなっているため、大丈夫なのか不安になる。京丹波町自体でホッケーを盛り上げる感じにならないと、何のためにしているかを伝えないともったいない。

事務局：広島県世羅町では町全体で盛り上げている。

次長：ホッケーだけでなく、どのクラブも人が足りないが、多様性を重視している。バランス感覚が重要となっている。

委員：カヌー部はあるのか。

事務局：クラブチームで独自に活動している。

#### ・学童保育事業の充実 P6

委員：大半はひかり小学校の子で、その中に竹野小学校の子が居て居場所がなかったり、馴染めなくて学童に行きにくい。

堂本次長：基本的には、子ども40人に支援員ひとり、夏休み申込者80人のうち50・60人がのびのび施設と地域交流センターで受け入れし、概ね3人ずつ支援員を

置いている。学童保育は歴史が浅い、何をすべきかが特に決まっていない。お家であることをさせている。最近では学童崩壊という言葉も出てきている。支援員も1日5時間程度で仕事をできる方は、あまりいらっしやらない。教育委員会としては課題と認識し、解決へ向けて方法を探していきたい。

・子育て基金の創設（ふるさと納税との連携） P9

次長：育英資金という高校、大学の在学中に使用できるものがあり、給付金形式となっている。ふるさと応援寄付金を育英資金に積んでいきたいと思う。対象者は年間40人程度となる。

委員：基金が集められない状況になったとき、どうされる予定か。

事務局：一般財源を含めて必要な事業として進めていく。

・ケーブルテレビ伝送路の光化統一事業 P9

事務局：KPIは現状測れていない状況、民間譲渡した上では、視聴率も向上するものとなりますので、この計画期間中は、新たなKPIをおきたいと思う。

委員：ケーブルテレビを見てもらうためにSNS等を活用し、何かしていただきたい。

事務局：良いものを作っているのので、活用方法を検討していきたい。

委員：ダイジェスト版など作成し、町外の人にも見てもらうのは良いと思う。

・地域防災力向上事業 P13

委員：乳幼児のいる家族では、消防団でも育休のようなものがあるべきで、夜の忙しい時間帯は特に母親の負担が大きい。

事務局：全国各地で色々な議論があり、京丹波町もそのような現状となっている。入りやすい消防団は必要と思う。

委員：団員50人程減少しているが、何があったのか。

事務局：区域の再編による減少となる。

・住み続けられるまちづくり事業 P13

事務局：分譲地は売り切り事業は終了した、今後は別な形で移住促進に繋がる事業を考えていく。

## 第1回福祉厚生部会記録

- ◆日 時：令和5年9月22日（金） 14時00分～16時30分
- ◆場 所：京丹波町役場委員会室
- ◆出席者：堀郁太郎委員、奥戸久美子委員、津田勝二委員、山本麻里委員、湊由利江委員  
（木南部長、堀課長）

### 部会長・副部会長の選任について

部会長：湊由利江委員  
副部会長：津田勝二委員

### 創生戦略事業評価について

#### ・福祉介護事業所の就業者数 P2

委員：ヘルパーは不足しており、課題は在宅介護（高齢・障がい）にあり、ヘルパーの養成講座は受講者がいない、就労に繋がりにくい。県外からの経験者に対して住居の支援や外国人人材は在宅介護に厳しいため、将来へ向けて支援し、介護人材を確保していければと思う。

部長：平成25年から開始し、5人程、介護福祉士育成学資金貸付事業を利用している。

委員：人が来ない理由は、給与か健康が理由なのか。

委員：時給は良いが、前後の移動時間が長く、収入として低くなる。

#### ・地域子育て支援センター事業 P6

部長：意見の過大な事業費とあるが、432万円は人件費や施設維持等に係る費用となる。

#### ・「笑がおで食育」推進事業 P6

委員：地元の野菜使用の方が費用的に高いか。

部長：価格は高いが、量的なものに不安がある。十文字学園や双葉町の郷土料理なども今後検討している。

#### ・ライフデザイン教育推進事業 P7

委員：和知中学校の取り組みとして命の尊さを学ぶ機会はあるが、その他の中学校はどうですか。

部長：中学校の職業体験の一環で実施している。

#### ・木育スタートアップ事業 P8

委員：未就学児の取り組みしかないため、小中学校生にも体験していただきたい。

委員：林業大学のイベントのような形式で開催されれば良いと思う。

委員：事業費400万円は、どのような内容か。

部長：支援センターの施設維持費を計上している。

・高校生等医療費助成 P8

委員：教育費など嵩む高校生の負担上限金額は200円のままでよいのではないか。

部長：新たな国の補助金もあり、今年10月から自己負担0円となっている。(償還払い)

・思春期サポート事業 P9

委員：学校などで相談の機会が設けられるのか。

部長：健康推進課の担当が相談を受け、年度初めに学校へのお知らせや広報もしている。

月1回の面談を基本として実施している。

・医師等確保推進事業 P10

委員：最重要課題として捉え、住宅を用意するなどしてはどうか。病院がある限りは先生は必要となり、非常に難しい課題となる。

委員：医学部は非常に費用が掛かるから、そのような家族に移住してもらうのはどうか。

部長：現状3年縛りで先生の確保できている。住宅の借用年数で縛り年が増える。

・特定健康診査受診率 P10

部長：受診率は、京都府下、伊根町に次いで2位となり、受けやすい環境にある。

## 第1回産業建設部会記録

- ◆日時：令和5年9月22日（金） 14時00分～16時30分
- ◆場所：京丹波町役場大会議室
- ◆出席者：樋口義昭委員、安谷一秀委員、庄崎博蔵委員、嵐光輝委員、沖哲司委員、杉浦美穂委員  
(栗林部長、倉澤主査)

### 部会長・副部会長の選任について

部会長：樋口義輝委員

副部会長：杉浦美穂委員

### 創生戦略事業評価について

- ・地域資源活用型事業（企業家）誘致事業 P1
  - 委員：目標値は件数のみフォーカスするのではなく、職種も分かるようにしてほしい。
  - 委員：企業誘致することにより町内企業の人材不足が引き起こされているため、ケアをする施策が必要と思う。
- ・新産業創出事業 P1
  - 委員：林業大学の生徒数も減少しており、入学斡旋を須知高校へ情報提供している。
  - 委員：安谷建設では農芸高校からインターンを受け入れている。アルバイト感覚ではないインターンシップを目指しており、希望した方は10名であった。
- ・地域商社ふるさと産品開発プロジェクト事業 P1
  - 委員：観光協会会長としても枝豆もぎ取り体験やゴルフ場活用などの応援していきたい。  
移住者と農業者の会う機会もあれば、連携が図れる。
  - 部長：ふるさと納税の売上順位は、一位から、京かも肉、枝豆、栗、牛肉、豚肉となる。
- ・京丹波町産木材活用促進事業 P2
  - 委員：町内の搬出間伐は10年間7万㎡間伐材となり、7億円売上。資源が眠っていた効果となる。一人でも多くの林大生を受け入れており、平均年齢41歳と若い。また、ハタケシメジの生産においても間伐材を利用している。
- ・バイオテクノロジーを活用した地域産業活性化事業 P3
  - 委員：以前は余って困っていたが、牛の餌の利用により現在は余っていない。
- ・ICTを活用したスマート農業導入支援事業 P3
  - 委員：トラクターの安全管理について、高齢者の対応をしていかなければ、安全が保たれないと思う。

部長：評価意見についてスマート農業に係る事業費は毎年度要望に応じて増額している。

・農林業の担い手対策 P4

委員：若手農業者の経営を助けるためにも今年度も補助していただきたい。

部長：今年度も補助する。

・住みつなく空き家活用事業 P4

委員：空き家補助金は、同一の空き家に対して移住者と空き家所有者の両方の立場から重複して補助を受けられるか。

事務局：補助金の性質上受けられない。

・お試し居住による段階的移住の促進

委員：若者のニーズ対応した整備とは、土間や襖が多くない感じで、リビングが広く、オシャレなイメージ。

・「道の駅」地域拠点機能強化事業（森の京都関連事業）

委員：ボトムアップで意見などを積み上げることができる出荷者協議会の連絡協議会が必要と思う。

委員：今後のフードバレー構想を見据え、食料自給率のような食の潤沢さをアピールできる KPI も検討してみてはどうか。

事務局：カロリーベースや農林業センサス、家計調査など基礎資料を基に検討する。